

□ □ □

■『興津の春』(故大下藤次郎氏筆)は昨冬の作にして原畫はワットマン九ツ切大

■『ナポリ』(南薰造氏筆)は洋行中の作品にて原畫は水彩畫、九ツ切

■『水仙』(眞野紀太郎氏筆)昨年作にて原畫はワットマン四ツ切大

■『淺間神社』(赤城泰舒氏筆)は昨冬の作にして原畫はワットマン四ツ切稍小

■ ■ ■

□本號に掲載すべく豫告せし二三のものは筆者の都合(旅行中、或は病のため)により休載の止むを得ざるに至りしが、次號よりは可及的連載のうちに勉むべく候。

□前號にても申上げ置き候ひしが、大下家に寄せられたる御年賀狀は、厚く御受け申上げ候へども、喪中にて候へば御答禮を缺き申候につき、此段御承知相成度候。

□春鳥會々員規定出來有之候につき御入用の方は送料を添へ申込相成度候。

□本誌々代として振替貯金を以て御送金の節は正規により一錢づゝ登記料として

御加算の上、御拂込有之度候。

問ひに答ふ

□一寫生畫の研究に白き花の陰影には黃色を使ふとありしが、黃色其儘を使ふにや 二太陽を受けし瓦屋根は黃にも亦、黒にも見ゆるが、如何なる色を使ふにや 三水張してもワツシの時には、ふくれ上るがそれにて宜敷か 四大下式用水筒はハツ切箱用より大なるか(○▲生)

■一問題が散漫にて説明に窮す。白き花とても光線の關係によりて、其陰影の色一様ならず、總じて黃色を呈すと言ふ、著者の意なれば必ずしも黃と斷定するものでない。若し黃色を呈する場合は、其の強弱を極めて着色せらるべし、黃色その儘の使用云々は、御答への限りに非ず。二前者の問題に略等し。これは色にあらずして光りなり、無論色を以て現し得るものなれども、瓦の新きと古き、光線の度合、屋根の傾斜、等によりて相違す、斯の如き外光を描く場合は、他の物體と比較、對象して適當なる手段を講ぜらる

べし。色は何色と指定し得るものに非ず。

三普遍の描き方にてはフクレ上る事少し充分に水貼せざる故なるべし。四大下式用なるものを特に知らず。みづゑスケッチ箱に用ゆるものならばハツ切のものと等しきも、厚きものは不適當なり。

□水彩及油繪にて人物研究には如何なる參考書を學びて可なるや(紀南の靜)

■専門の良書あるを聞かず、且つ困難なるべし。左に一二を紹介する。

人體畫法(岡田三郎助、川崎安共著)

東京京橋區南傳馬町一の二隆文館發行

藝用解剖學(森林太郎、久米桂一郎共著)

東京本郷區湯島切通町二五畫報社發行

讀者の領分

新年號の『みづゑ』はなんとなく、なつかしいものでした。殊に、表紙のコスモスは『四十四年の秋』を思はせました。私にはあの可愛らしい水鳥と、故先生の愛兒であつた『みづゑ』とは同一のものであるやうに思はれてなりません——テツタロ——

皆様新年は御芽出たら存じます、然し私は先生の御在世の様に今年は御芽出たいやうに思へません。『みづゑ』には毎號先生の水彩畫と御遺稿を掲げてくださるので、まだ先生が御達者で御在でなさる様な氣分も致します（大坂桃山より）

一月の美術界

□東京勸業展覽會 同會は博覽會協會の主催にて来る三月二十日より六月二十日まで上野公園池の端勸業協會陳列館に於て開催するに決し會長に中野武營、副會長に星野錫の兩氏、審査總長に平山成信、同部長に手島精一、正木直彦の諸氏を囑托し、出品部類は前回の如く、第一部（美術）第二部（美術工藝）第三部（製作工業）とに分ち出品せしむべしと、左に出品心得の大略を記すべし。

第一、二部の出品は總て之を鑑査し合格したるものに限り之を陳列す（帝室技藝員、文部省展覽會審査委員及同委員たりしもの若くは同會藝術顧問及審査員の作品は鑑査を用ひず。又官公設の博覽會、

展覽會に出陳したるもの、衛生風教に害ありと認むるもの並に危險物は陳列を許さず）而して出品を爲さんとする者は来る二月十五日迄に出品申込書二通を事務所（當分の内東京府廳農商課内）に差出して承諾を受け、出品は解説書を添えて三月十日より同月十五日迄に會場へ搬入すへき事。又褒賞は技藝賞、出品賞の二種とし東京府知事より授與する筈なるが技藝賞は第一、二部出品の製作人に授け、出品賞は製作人と出品人と異なるときに限り出品人に授くる由（様式其他は同會事務所があれば希望者は請求さるべし）

□上野に於ける本年中の各展覽會日割

第一回教育展覽會	自二月二十九日 至三月二十九日
日月畫會展覽會	自二月二十九日 至三月二十九日
日本畫會展覽會	自三月十一日 至三月三十一日
美術研精會展覽會	全右
日本金工協會競技會	自三月二十二日 至四月十九日
讀畫會展覽會	自四月十一日 至四月三十日
巽畫會展覽會	全右
寫眞研究會展覽會	自三月十一日 至三月三十一日
南京畫會展覽會	自四月十一日 至四月三十日

太平洋畫會展覽會 自四月二十日
至五月十九日

無聲會展覽會 自五月十一日
至五月三十一日

明治繪畫會展覽會 全右

天真畫會展覽會 全右

二葉會展覽會 自五月二十日
至六月十八日

日本彫刻會展覽會 自九月十一日
至九月三十日

日本水彩畫會展覽會 全右

東京鑄金會展覽會 全右

文部省美術展覽會 不 明

以上の如く定められあるも開催の時日等は多少變更を來すことある可し。

□東京美術學校にては今回圖畫師範科生徒約二十人を募集する由、薦舉期限は三月一日より十四日迄にして撰拔試験は四月一日より同校内に於て施行せらるゝ筈

□三越呉服店にて近日募集する懸賞裾模様圖案の題目は『江戸』（江戸趣味を利かすもの）、『初戀』『春の海』『うらゝか』『情』其他曲線、三角形を應用したるものの七種に決定し、懸賞金額其他は前回の例に據る由。

□日本水彩畫會新年會は一月二十八日同會研究所にて催され盛會なりき。